

平成27年度 キャリア教育推進地域事業推進校

研究テーマ

学校名：須崎市立浦ノ内小学校

「伝え合う力を養い、高め合う授業の創造」
～かかわり合いながら活用する力の育成～

キャリア教育目標

よりよい人間関係を築きながら、自分の良さを見つけ、みんなで夢と希望のある生活や将来をつくりだしていこうとする意欲や態度を育てる。

1. 取組内容

昨年度は、学校統合による新校舎移転に関わって、新しい施設での新しいルールに慣れること、統合2年目の本年度は、何を言っても受け入れてもらえる安心感のある集団作りを大切にしてきた。

また、生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し、実施、記録作成や算数科の授業研究、キャリア教育の研究を積み重ねてきた。

そのなかで、児童が学んだことを活用しながら、新たな課題に向かう学習の姿勢は、少しずつ育ってきたように思う。

しかし、文章の中で何が問題になっているかを子どもたち自身が読み取ったり、自分が考えたことを他者に伝えたりする場面では、まだ弱さがみられる。

今年度は、授業で子どもが読み取ったことや考えたことを相手に伝えるように、根拠を示しながら話せるような授業をめざしてきた。児童の伝え合う力を高めるためには、話す技能や話を聞き取る力を身につけさせ、児童自身が伝え合いを楽しみと感じ、伝え合うことへの意欲をもつことが大切である。そのために、各学年が教科・教材によって設定する「目指す子どもの姿」にどこまで迫れたかを授業研究の柱として研究主題につなげる研究を進めてきた。

全体での学習の進め方が話題にできるように、教科は昨年度に引き続き算数科を3つの学年で、伝え合うことの基礎・基本となる教科の国語科を3つの学年で、あわせて研究を進めてきた。

(1)1学期授業研究

①各学年の授業研の実施について(事後研は各部会に分かれて行う)

5月13日(水)	指導案検討	2年国語・6年算数
5月20日(水)	授業研究・事後研	2年国語・6年算数
6月 3日(水)	指導案検討	4年国語・3年算数
6月10日(水)	授業研究・事後研	2年国語・6年算数
6月24日(水)	指導案検討	5年国語・1年算数
7月 1日(水)	授業研究・事後研	5年国語・1年算数

② 6月17日(水)の浦ノ内中学校区あったか合同授業研

6月17日 助言者:国語部会・算数部会:中部教育事務所 特別支援部会:日高養護学校

学年	教科	教材名・単元名
1年	算数	「のこりはいくつ ちがいはいくつ」
2年	国語	「2つのせつめいをくらべよう」
3年	算数	「新しい計算を考えよう」
4年	国語	「みんなで新聞を作ろう」
5年	国語	「なまえつけてよ」
6年	算数	「分数のわり算」
ひまわり	自立活動	「プレゼントをつくろう」

(2) 2学期の研修

11月18日(水)須崎市地域ぐるみ教育研究発表会

学年	教科	単元名・教材名
1年	算数	「かたちあそび」
2年	国語	「ビーバーの大工事」
3年	算数	「重さをはかろう」
4年	国語	「くらしの中の和と洋」
5年	国語	「大造じいさんとガン」
6年	算数	「順序よく整理して調べる」
ひまわり(1年)	音楽	「リズムを楽しもう」

(3) 生活科・総合的な学習の時間を通じた地域との連携教育

1年生 ひろばであそぼう

川の土手をネイチャーゲーム①(自然探検ビンゴ)をしながら歩き、川遊びをしたところから西にある大浦の神社へ行った。道中ではヨモギやツユクサ、ヒメジョオンなど初めて知る草花に興味をもち、草花遊びに親しんだ。神社の広場では、川遊びと同様に子どもたちから進んで工夫して遊ぶことができた。ネイチャーゲーム②(自然のかくし絵)では、自然の中にないにせものの自然を採ることに興味をもって楽しんでいった。



自然体験ビンゴ



おにごっこ



草花あそび

2年生 施設を探検しよう

農協・集荷場・駐在・デイサービス・公民館に探検に行った。

農協

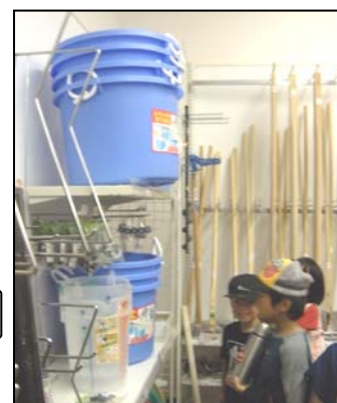


これは 何をするものですか。



20Lがある！

60Lがあったで！



農協の売店では 興味津々！いろいろ発見しては
お店人に聞いたり友だちや
先生に教えてあげたり・・・
算数の勉強にもなった。

「上に どうぶつ
つかまえるかごが
ある！」
「どくもある！」
「500ml や。」



集荷場



「どこへ送るんですか？」
「みょうがは何 c m ですか？」
「1日に何箱できますか？」
「ここで何人働いていますか？」
「1パック何円ですか？」

駐在



(犯人・尋ね人のポ
スターが気になる)
「なんでこんなが貼
っちゃうが？」

デイサービス



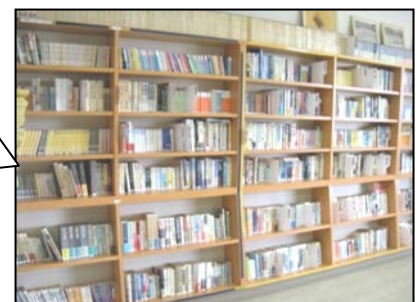
「なんでベッドがあるが？」
「お風呂はどこにあるが？」
「お風呂はひろい？」
「帰りにおじいちゃんおばあちゃんと握手して、
喜んでもらえたことが嬉しかった。」



「こんな車見たことある！」
「車イスのまま乗れるがで。」
「おばあちゃんがいきよった。」

公民館

「巡航船に乗る前、ここでしゅくだいしたことがある。」
「本は何日借れるが？」
「どうやって 借りたらいいんですか？」
「将棋しに来る。」
「料理しに来た。」「ヨガもしゆう。」



3年生 浦ノ内の宝物を見つけよう Part 1

(1) 鳴無地区の調査をしよう



鳴無地区では、国の重要指定文化財にもなっている鳴無神社を調査した。宮司の森田さんから、神社の成り立ちの昔話から、神社の説明や参拝の仕方、お祭りの詳しい説明等様々なお話を聞くことができた。

初めてメモを取りながらお話を聞く機会であったが、どの児童もとても真剣に聞き取った内容をメモしていた。帰ってからのまとめ学習では、特に成り立ちのお話について興味のある児童が多く、現代の児童たちには馴染みのない神様が出てくるお話にとっても心が惹かれたようである。3学期のまとめ発表では劇化しようという意見も出た。

(2) 深浦地区の調査をしよう



深浦地区では、昔から浦ノ内湾で漁業をされてきた福龍水産の福本さん夫妻から、浦ノ内湾の漁業の変遷と現在の浦ノ内湾の漁業の現状についてお話していただいた。自分たちの校歌に出てくる真珠も昔は浦ノ内湾で育てられていたということもわかり、地域と学校との繋がりも感じ取ることができ、一層自分たちの地域への愛着を感じた児童もいたようである。

次に深浦漁協で、漁協の仕事についてお話を聞いた。漁協の仕事の中で特に児童たちが興味をもったのは保険事業についてであった。魚にも保険があるということを知らなかった児童たちは、夏にあった台風でのことなど関連のあることを積極的に質問し、メモにまとめていた。

(3) 松ヶ崎地区の調査をしよう



松ヶ崎地区では、明德義塾中高等学校へ調査に行き、創始者の一人である吉田さんからお話を聞いたり、バスに乗せてもらったりして学校内を案内していただいた。創設当時の思いや、当時の苦労したエピソード等の昔話や、今の明德に関するお話や施設等を見せてもらった。地域にある私立の学校として、児童たちはあるのは知っていたが、学校内までは知らなかった児童も多く、とても興味をもって調査することができた。

4年生 すさき・浦ノ内の食べ物をさがそう（農作物）

キュウリ農家、みょうが農家の見学

まず、自分たちの身の回りで栽培されている農作物について児童からは、キュウリ、ポンカン、みょうが、ピーマンなどが栽培されていることが出された。しかし、くわしく栽培の様子を知っている児童は少ないので、栽培の様子や働いている人の様子、気持ちについて知ろうと投げかけて、見学に行きたい、知りたいと思うことを出して話し合った。

児童からは、日ごろあまり目にすることのないポンカンの栽培について見学の希望が出されたが、この季節には作業がないとのことなので、次の希望のキュウリ、みょうが農家の見学に行かせてもらうことにした。

初めに、キュウリ農家に見学に行かせてもらった。ハウス栽培をしているところを見学させてもらうので、児童は興味をもって施設を見させてもらった。事前に質問をまとめて見学に来たのだが、栽培農家の方に直接質問を積極的にする児童が限られてしまった。

しかし、メモを頑張って取り、興味・関心をもって見学ができた。

次に、みょうがの植えられている様子も、農家の方のご厚意でハウスの中に入れてもらい、見学させてもらった。実際に入って見学させてもらったので、より栽培の様子が学習できた。

見学に行って栽培農家の方に質問をしていったが、自分の質問であるという意識が良かったのか、2度目であるということが良かったのか、みんなが積極的にどんどん質問をすることができた。

見学後のまとめには、国語科の学習をリンクさせて新聞づくりを行った。見出しを考え、記事を仕上げ、割り付けを行うことなどの難しい面もあったが、各自取ったメモを参考にしながら記事にし、グループで新聞を仕上げた。総合的な学習の時間と他の教科を合わせた授業ができてよかった。



5年生 職場体験

①福龍水産 浦ノ内湾での沿岸漁業を2名が体験した。前日までに仕掛けていた網を引きあげ、かかった魚やカニ、カキを網からはずす作業を行った。2人の児童は、網を引きながら獲物がかかっている手ごたえを感じて喜び、積極的に魚の種類や特徴を尋ねた。大きな魚や形が複雑な魚も簡単に網から外す漁師さんの姿を見て、職人の技を感じていた。浦ノ内湾での漁獲量は昔と比べると少なくなっているが、子どもたちにとってはたくさんの種類の魚が湾内で取れることが楽しかったようである。また、浦ノ内の漁業の歴史や仕事内容についても話を聞き、漁業に対して関心をもっていた。



②海援鯛養殖 2名が、海援鯛の養殖いけすに出向き、えさやりの手伝いをした。予想していた以上にたくさんのえさを鯛に与えていることや、この仕事をふだんは一人でやっていることに子どもたちは驚いていた。作業の合間に、自然災害時の備えや消費者のニーズに合わせた生産についてなど養殖業に関する話をうかがった。体験した2人とも、将来「海援鯛」を育てたいと漁業に関心をもっていた。



③浦ノ内保育園



3名が体験した。初日は、11月の誕生日会があり、紙芝居や大型絵本の読み聞かせを行った。学校で事前に練習をしていたのでスムーズに読むことができた。2日目は、焼き芋パーティの準備を手伝ったり、初日とは違う組に配属されて園児と遊んだりした。3日目は焼き芋パーティを園児たちと楽しんだ。園児と一緒に遊んだり、給食の準備の手伝いをしたりする中で、園児に気を配りながら作業をする職員さんの苦労や努力を感じていた。担当した3人は日を追うごとに緊張感がほぐれ、園児の要求にこたえることができるようになってきた。

④JA 土佐くろしお



初日は「笑顔で元気に挨拶をすること」を目標に3名が接客と、商品の補ポップ作りでは、見本を見ながら丁寧に文字や絵をかいていた。2・3日目は、レジ打ちの仕方を学んだり、ハウスの見学に出向いたりした。たくさんの商品にバーコードを一枚ずつ貼っていることやお客さんの注文に応じてすばやく商品を出している職員さんの姿にこれまでの努力を感じていた。接客業や農業についてふだん知らないことを見聞きすることができ、良い体験となった。

⑤デイサービス



担当の3人は、初日から積極的にデイサービスの利用者や職員さんに話しかけ仲良くなっていた。浦ノ内生まれの方からは、浦ノ内の昔の様子や小さい頃の思い出を聞かせていただいた。話が聞き取りにくい場合は、職員さんの姿を参考に筆談をするなど、初日から相手のことを考えた行動がとれていた。入浴した方の髪をかかわしたり、利用者と一緒に塗り絵をしたりする間も、子どもたちから気さくに話しかけることができていた。肩もみやお茶出しも積極的に行い、利用者の方に喜んでもらった。

6年生 在日外国人の方から外国の文化や歴史を学ぶと共にその人たちの夢や目標を聞こう

コンゴ民主共和国 ガツ・ロジャーさん



アフリカの人と初めて出会って、コンゴの話を聞いた子どもたちは、日本との大きな違いを感じていた。

学校に通うのに20kmも歩いたり、貧富の差が大きく十分に教育を受けられなかったりする子どもたちが大勢いることに驚いていた。「ジャンボ」と大きな声で踊りながら、太鼓のリズムに合わせて楽しい踊りを習うことができた。

ブラジル 西森陽子さん



日系2世の西森陽子さんから話を聞いた。彼女のお父さんは須崎工業高校出身で、不思議なつながりを感じた。

日本からもっとも遠い国ブラジル、多民族国家ならではの価値観や文化の多様性にふれることができた。チーズを練り込んだパン菓子の作り方を習って、食べることができて子どもたちはとても喜んでいました。サッカーやリオのカーニバルなど、画像や映像を使って、子どもたちに文化を伝えてくれた。

ロシア ヴィクトリア・ポポヴァさん



日本へ来て5年目のヴィクトリアさんは、とてもフレンドリーに子どもたちに接してくれた。ロシアの世界遺産や様々な宮殿、冬の素晴らしい景色の写真に子どもたちは見とれていた。自分で作ったというカチューシャを子どもたちはかぶったり、クレープ風のパンを焼いてジャムをつけてみんなで食べたり、体育館でロシアのゲームを教えてくれて楽しく遊んだ。子どもたちは、ロシアのことを今まで以上に好きになり、興味をもつことができた。

モンゴル フランネル・テルメンさん



高知大学に留学生としてきているテルメンさんは、馬頭琴の名手で子どもたちにモンゴルの曲を演奏してくれた。他にも民族衣装を着させてもらったり、料理を教えてもらった。ミルクと砂糖でつくったお粥や、肉を出汁にし、塩のみで味付けをしたモンゴル風のうどんなど一緒に作って食べることができた。「スーホの白い馬」の話をしてくれて、遊牧民と今のモンゴル人の生活の違いを説明してくれた。

〈学習活動を通しての成果と課題〉

子どもたちは外国の人に直接出会い、話を聞いたり一緒に活動したりする中で、刺激を受け、どの子どももその国に行ってみたいと感想をもった。

コンゴの発表の中では、貧富の差による問題なども発表したり、国による学校の仕組みの違いなどにも興味をもっていったりした。そして、それらのことを壁新聞にしてわかりやすく伝えようとしていた。

「ジャンボ」のダンスや実際料理したパンケーキを食べてもらったり、発表のしかたも工夫されていた。講師に協力してもらって、パワーポイントを使ったり、民族衣装を着たり、音楽を聴いてもらったりと、もっと多様で直接的に伝える工夫もできたと思う。

この出会いを通して、自分の生活を見つめ、自分のこれからの目標や将来について考えることができた子どもたちも多数いた。

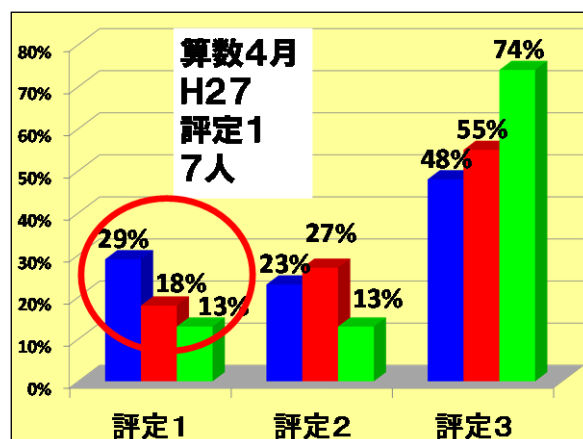
この学習を通して、自ら関心をもって日本と外国の違い、さまざまな国の良さや問題点などを知りながら、自分の生き方を考えていくきっかけになったと思う。



ブリニを食べる5年生たち

2. 成果

H25～27 標準学力調査の結果（算数）



1 基礎学力の向上を目指し、家庭学習の提出率90%を目標にする。

標準学力調査では、学年によって大きく差があるが、4月の結果を基に各学級で取り組みを進め、課題の解決が進んでいる。6年生の全国学力・学習状況調査では、基礎的問題、発展問題ともに成果が上がっている。また、家庭学習の提出率は、90%を超えている。特に長期休業中の課題の提出については、ほぼ100%の提出率である。今年度からサマースクール（加力学習）を全校で取り組み、基礎学力の定着に努めた。

2 基本的生活習慣（早寝・早起き時間、場面に応じた挨拶等）90%を目標にする。

基本的生活習慣では、家庭の協力により「早寝、早起き、朝ご飯」の取り組みができている児童は、90%を超えている。また、市や県の取り組みと合わせ、調査週間を決め、結果を集計してできている児童を表彰し、家庭にも報告している。

3 効果的な体験活動を実施し、体験活動満足度90%を目標にする。

学校評価アンケート結果から「学校が楽しい」「授業がわかる」などの肯定的意見は、各学年とも90%以上の満足感を児童は得ている。今年度、3年生で行った巡航船で校区探検をする取り組み、地域教材の開発とともに、今までにない体験ができた児童たちは、活動に満足できていた。

4 キャリア教育の視点を明確にした年間指導計画の改訂を行う。

生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画を全面的に見直し、キャリア教育の視点を明確にした年間指導計画を作成して、実施した。また、国語科・算数科・道徳でも全校授業研や公開授業を実施し、キャリア教育の視点から研究協議を行うことができた。

5 1学期間に全学年が授業研を行う。

「伝え合う力を養い、高め合う授業の創造」～かかわり合いながら活用する力の育成～の研究主題に迫る取り組みを、国語部会・算数部会に分かれて行った。その中で、表現力では、自分の考えや思いを筋道を立てて相手に分かりやすく伝えることができる力の育成とともに、相手の考えを理解しようとする聞く力の育成にも取り組んだ。

6 学習指導案の冒頭に、「目指す子どもの姿」を明記する。

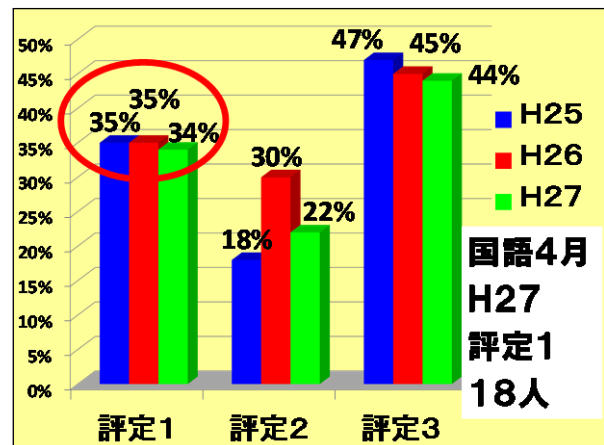
事後研ではそこに焦点を当てて授業評価を行った。その中で、授業者の成果と課題を明らかにし、次時の授業改善につなげていくことができている。

7 チャレンジタイムを充実させる。

「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになった課題のある設問に集中的に取り組むを行い、また授業では、学習に課題のある児童への支援を適切に行うようにしている。

3. 課題とその改善策

H25～27 標準学力調査の結果（国語）



1 基礎的学力および発展的学力の向上と家庭学習の習慣化、定着化を目指す。

「読解力」や「説明力」に大きな課題がある。特に、毎年1年生終了時での格差が見られるため、読書教育および家庭学習の習慣化を図り、入学してからのスムーズな授業、学習態度への移行を図るために、保育園やその保護者と連携し、就学前の学習環境を整えていく必要がある。

また、授業改善の中で、「発表の仕方」「説明の仕方」について研究を進め、全校で統一されたルールづくりを行い、その実践に努め検証を行っていく。その上で、読解力を高めるためにあらゆる教科を通して、言葉の力・文章力・図や表・グラフの読み取りから自分の考えを導き出し、整理し、「伝え合う力を養い、高め合う授業の創造」に努めていく。

2 基本的生活習慣（早寝・早起き、時間、場面に応じた挨拶等）を身につける。

朝や帰りの挨拶は、友だち同士、教職員にも大きな声で積極的にできるが、お客さんが来た時など場面に応じた挨拶や受け答えなど不十分であり、学校の課題として集会活動や学級指導など、日常生活全般を通して指導をしていく。

3 効果的な体験活動を実施し、体験活動満足度の質的向上を目指す。

今年度の活動を見直し、活動内容の工夫改善を行い、児童の実態に即した活動や地域と連携した体験活動を増やしていく。